

総合的な学習の時間－5（第4学年） 資料や体験を比較し分析することで課題を設定する事例  
【学習活動の概要】

1 単元名 鶴見川探検隊		
2 単元の目標 鶴見川の観察や調査を通して、鶴見川には多くの生き物や植物などがいることを知り、地元の大学やNPOと協力して鶴見川の自然を大切に守っていこうとする。		
3 評価規準 【学習方法】鶴見川に生息する自然についての情報を適切に収集し、鶴見川の特徴的な環境条件について複数の角度から分析している。 【自分自身】鶴見川と自分とのかかわりを基に、鶴見川に対する思いを明らかにしている。 【他者や社会とのかかわり】地域の方々と積極的にかかわり、自分の思いや気持ちを伝えている。		
4 教材 学校の近くを流れる鶴見川は、一級河川の中でも日本で3番目に汚い川と言われている。しかし、本校は上流域に位置するためか、学校周辺の流域では生物が多く生息している。思っていた以上に川はきれいで生物が多く存在することに、児童は驚き関心を高めることが期待できる。 そこで、身近な鶴見川の生態系を調査し、その特徴を人間の視点や生物の視点などから分析する活動を行う。実際に地域の人々と河川の保全にかかわる活動を行ったり、その人の思いや考えに触れたりする中で、ふるさと鶴見川を大切に守っていこうとする心情を育みたいと考え単元を構成した。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開（全40時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	○ゲストティーチャーの話を聞き、鶴見川への関心を高め観察する。(6) ○鶴見川はポイントごとで違いがあることを発見し、実際に観察を行う。(10:本時 2/10)	・ゲストティーチャーの話を聞き、あこがれをもたせる。また、2か所のポイントを示し違いに気付かせ、もっと違いがあるのかという課題意識をもたせる。
第二次	○季節が変わるとどのように変わるのかを調べに行き、観察記録をつける。(10)	・観察したことを話し合ったりマップに整理したりして、協同で解決していく。
第三次	○保護者や地域住民が鶴見川にどのようなイメージをもち、どの程度知っているかをアンケートにとって整理する。(6)	・アンケートの結果から鶴見川のよさを伝える必要感をもたせる。
第四次	○鶴見川についてまとめたことを地域や保護者の人々やお世話になったNPO法人の方々に報告する。(8)	・活動したことやそこでの思考を確かな認識とするために、言語により振り返りまとめる活動を行う
(2)本時の学習 鶴見川の2か所のポイントについての違いを出し合うことで、なぜそのような違いが出るのかを考え、また他の地点はどうかといった新たな課題をもつことができるようにする。		
<p>○鶴見川の2か所の違いを発表し合い、マップに整理する。 ○なぜそのような違いが見られるのかを話し合う。 ○さらに違いが見られるか、また他の地点はどうかなど新たな課題を出し合う。</p>		

